

保護者の皆様へ

お子さんのご卒業、おめでとうございます

本日は、お子さんのご卒業、おめでとうございます。お子さんは、本日をもって3年間の中学校の教育課程そして義務教育課程を修了しました。卒業証書授与式では、たくましく成長したお子さんの姿、また卒業証書を授与され、凛々しく前を見つめるお子さんの表情をご覧になり、感慨もひとしおのことと思います。私たち教員も、お子さんの立派になった姿を、大変うれしく、また頼もしく思っております。保護者の方々はじめ多くの方々への感謝、自分の前途への希望、母校・西可児中学校への思い、そういうもので心が満ちているということが伝わってきました。お子さんが今日、このハレの日を無事に迎えられましたのも、保護者の皆様の学校・学年の教育活動へのご理解とご協力、ご家庭でのお支えがあったからこそ大変感謝しております。本当にありがとうございました。

卒業証書授与式のリーフレットにも書いてありますが、お子さんたちの西可児中学校入学から卒業までの3年間は、コロナ禍のただ中にありました。6月に入学式を挙げるという異例中の異例で始まり、分散登校、ソーシャル・ディスタンスを保った活動などの数々の制約の中で学校生活を送ってきた3年間でした。マスクで相手の表情が見えない状況、仲間と関わりたくても関われない状況、授業では小集団交流の時間にも限りを設けなければならない状況、大きな声が出せず、合唱もできない状況など、数え挙げれば、枚挙にいとまがない程、多くの困難な状況があり、本来の学校生活とは異なる日々でした。しかし、そうした制限がかかる日常でも、いえ、そうした日常だからこそ、お子さんたちは「ぶれない日常生活の姿勢」「仲間と共に創る授業」「他者と関わることの大切さ」「信頼関係の中で生まれる喜び」など、それらの価値を見つめ、その価値の意味に気づき、自分たちの学校生活を築き上げてきました。

そして、この3年間の後半、特に3年生時には、開催できる行事が増え、諸活動もできるようになってきました。このことは嬉しい一方で、一つの試練・挑戦ともいうべきものをこの学年の生徒たちにもたらしめました。入学から3年生になる前まで、実際に経験して実感したことはもちろんなく、間近で見たこともない行事や活動 - 宿泊を伴う研修(広島・大阪研修)、生徒集会で実際に仲間の前に立つて行う発表、全校音楽会など - に挑戦することになったからです。しかし、生徒たちは、そうした経験のない、難しいものに対しても意欲的に取り組み、自分たちでイメージネーションをふくらませながら、その行事や活動にける願いや思いを中心にすえ、成功をおさめてきました。コロナ禍で中断していたものを、自分たちの手で新しいかたちにして創り出していく。その中心となり、新しいスタートとなるものを生み出してきた生徒たちを本当に誇りに思っています。

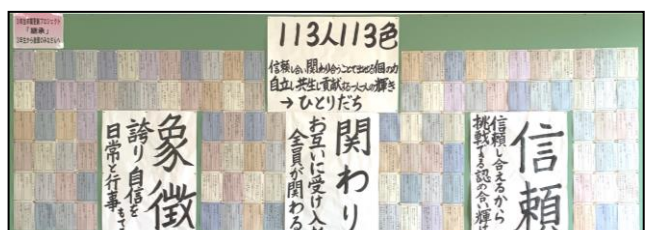
この生徒たちと過ごせた3年間、ごく近くで生徒たちの成長を感じることができ、本当に幸せでした。私が誇りとするこの生徒たちが卒業していくのは、本当に寂しいですが、胸を張って進路に進んでほしく、背中を押したいと思えます。この生徒たちならば、西可児中学校で身に付けた「ひとりだち」の力をこれからの進路で発揮し、自分が掲げる人生の目標の実現に向けて努力していけると信じています。

最後に、3年間、学年主任をさせていただく中で、私自身、至らないところがあり、保護者の皆様にはご迷惑をおかけしたことも多々あり、申し訳なく思っております。しかしながら、保護者の皆様のご理解とご協力のおかげで、本日を迎えることができました。3年間、本当にありがとうございました。

本日はお子さんのご卒業、本当におめでとうございます。



最後の生徒集会での学年からの発表

3年間で付けた力と後輩に「継承」したいこと
(生徒玄関に掲示)